

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.115 2005.9.9

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15(学)産業能率大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel:03-3704-9168 E-mail:JSEI@hj.sanno.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei

***** 第 2 1 回定時総会報告 *****

8月20日(土)13:30から滋賀大学教育学部 大講義室において、日本教育情報学会第21回定時総会が開催されました。

正会員476名のうち102名の出席があり(委任状による出席者50名を含む)、定款27条により総会は成立。木下昭一理事を議長、有園格理事を副議長として総会を開会しました。

議事に先立ち、去る6月27日に急逝された木田会長に全員で黙祷を捧げました。

提案された4議案 第1号議案 2004年度事業報告及び収支決算の件
第2号議案 2005年度事業計画及び予算案の件
第3号議案 定款改正の件
第4号議案 役員選任の件

は、審議の結果、原案通り承認されました。(議案内容はNewsletter No.114をご参照ください)

総会終了後、日本教育情報学会学会賞の表彰式を行いました。

..... 2005年度日本教育情報学会学会賞受賞者

奨励賞 (2件)

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究の中から選考する

- ・井上 史子 (山口市立川西中学校) 「中学校における自主性尺度項目作成の試み」
- ・本村 猛能 (川村学園女子大学) 「高大連携の体系的情報教育と教科「情報」の方向性」
(共に2004年第20回年会発表)

論文賞 (該当者なし)

学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授与する。

この賞は必ずしも毎年授与されるとは限らず、該当論文が得られた場合にのみ表彰する。

特別賞 (該当者なし)

***** 日本教育情報学会第21回年会開催報告 *****

日本教育情報学会第21回年会は、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会の後援をいただき、琵琶湖瀬田川の陽光まぶしい湖国 滋賀大学教育学部石山キャンパスを会場に8月20日(土)、21日(日)の両日開催しました。両日とも強い陽射しから突然雷鳴がとどろき豪雨に襲われましたが、移動時刻には雨はやみ、少しの涼しみの中、約180名の方が参加され、盛会のうちに開催することができました。

従来、ネットワークに接続できる環境は学校や自宅、公共施設等の固定された場所が多かったのですが、現在では駅のコンコースや喫茶店、移動中の列車の中など、無線LANが整備され「いつでも、どこでも」インターネットに接続できるユビキタス社会が到来しつつあります。ユビキタス社会では、いつでもどこでもネットを利用できますから、列車の席を予約したり、本を注文したり、あるいは電子図書館や電子博物館を利用すれば、源氏物語や解体新書の全ページを自宅で読むことも可能です。24時間、多様なサービスが展開されています。今年の年会では、e-Japan戦略やバーチャル・エージェンシーで構想されているデジタル・アーカイブを今一度、「ユビキタス社会での教育情報」という観点からその内容、活用、流通方法等の現状と課題を考究していきました。

そこで、シンポジウムの基調講演は「ユビキタス社会の教育情報を考える」をテーマに、西之園晴夫先生(NPO法人 学習開発研究所代表、京都教育大学名誉教授)にご講演をいただき、100名を超える聴講者がメモをとりながら、熱心に聴き入っていました。

引き続き行われたパネル討論では、宮田仁実行委員長(滋賀大学教育学部教授)をコーディネータに、パネリストの後藤忠彦岐阜女子大学副学長が「デジタル・アーカイブの教育利用の現状と課題～デジタル・アーキビストの養成～」、久保正敏国立民族学博物館文化資源研究センター教授が「文化資源アーカイブズの共同構築と共同利用：人智・文化・世界遺産の保存と共有を目指して」、井上透国立科学博物館展示・情報部情報サービス課長が「デジタル・アーカイブスの教育活用の現状と課題 - 博物館におけるデジタル・アーカイブスの提供 -」をテーマに、それぞれの立場から情報提供を行った後、「デジタル・アーカイブの教育活用の現状と課題」を主題においた意見交換を行いました。フロアからの熱心な質疑もあって、活発な討論が行われました。

課題研究は「教育情報の流通」「教育情報の活用」「教育情報の内容」「著作権と情報倫理」「特別支援教育と教育情報」の5課題に38件が発表され、一般研究も「e-learning」「メディア活用」「教育方法・授業分析・学習評価」「教育支援テクノロジー」「教育データベース」「情報活用能力」「大学教育」のセッションに分かれて60件発表があり、日頃の実践、研究成果が披露されました。

1日目終了後に開かれた懇親会には70名を超える方がご参加され、会場校の滋賀大学から副学長の井深信男先生に心あたたまる歓迎のごあいさつをいただきました。近江国の特産品「鮎寿司」に初めての味を堪能しました。近畿、北陸の各種日本酒もふるまわれ、和やかな雰囲気の中、ご自身の研究テーマやシンポジウムなどを話題に活発な話し合いの場として親睦が図られ、貴重な時間を送ることができました。

年会成功のため準備から当日運営まで、お手数をおかけいたしました年会実行委員会の方々、並びに会場をお借りしました滋賀大学の皆さまに、心からお礼申し上げます。

第21回年会論文集をご希望の方は年会実行委員会(077-537-7818, miyata@sue.shiga-u.ac.jp)までお問合せください。なお、シンポジウムの概要は後日「教育情報研究」に掲載する予定です。

2006年度第22回年会は岡山理科大学で開催いたします。本年同様8月の開催を予定していますが、詳しい日程等は改めてお知らせいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・ 役員・顧問・評議員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・

定款にもとづき、第21回において選任された役員、会長から委嘱される顧問、第24回理事会において推薦され会長から委嘱される評議員は次の方々です。

任期はいずれも 2005年11月15日から2007年11月14日になります。

日本教育情報学会役員

(: 新任 / : 機関の長として就任 / 五十音順 / 敬称略)

会 長	後藤 忠彦	(岐阜女子大学副学長)
副会長 [2 名]	林 徳治 若山 皖一郎	(山口大学教授) (十文字学園女子大学教授)
理 事 [1 8 名]	芦葉 浪久 有園 格 井上 透 沖 裕貴 奥田 真丈 鎌谷 秀男 神田 道子 木下 昭一 坂井 知志 坂元 昂 下田 昌嗣 白川 雄三 高 為重 菱村 幸彦 堀口 秀嗣 本郷 健 三輪 眞木子 矢野 重典	(東北師範大学客員教授) (星槎大学教授) (国立科学博物館) (山口大学教授) (芦屋学園本部理事長) (修成学園理事長) (国立女性教育会館理事長) (聖徳大学教授) (常磐大学教授) (メディア教育開発センター名誉教授) (松下教育研究財団事務局長) (大阪学院大学教授) (国立オリンピック記念青少年総合センター理事長) (学習ソフトウェア情報研究センター理事長) (常磐大学教授) (川村学園女子大学教授) (メディア教育開発センター教授) (国立教育政策研究所所長)
監 事 [2 名]	秋山 昭八 鈴木 忠	(秋山法律事務所所長) (北杜学園理事長, 公認会計士)

日本教育情報学会顧問

(: 新任 / 五十音順 / 敬称略) [1 0 名]

上野 一郎	(産業能率大学最高顧問)
大沼 淳	(文化学園理事長)
大森 厚	(中央工学校理事長)
小高 民雄	(東京書籍株式会社顧問)
熊谷 信昭	(兵庫県立大学学長)
古賀 節子	(青山学院大学名誉教授)
佐々木 幹夫	(前 産能大学出版部長)
清水 司	(東京家政大学理事長・学長)
鈴木 勲	(日本弘道会会長)
辰野 千壽	(応用教育研究所理事長・所長)

日本教育情報学会評議員

(: 新任 / 五十音順 / 敬称略) [40 名]

安達	一寿	(十文字学園女子大学助教授)
井口	磯夫	(十文字学園女子大学教授)
井上	史子	(山口市立川西中学校教諭)
太田	容次	(滋賀大学附属養護学校)
大西	莊一	(岡山理科大学教授)
岡	行輔	(学習ソフトウェア情報研究センター常務理事)
岡山	保美	(河合塾学園情報学園本部本部長)
奥野	雅和	(京都文教高等学校)
梶山	雅史	(東北大学教授)
加藤	直樹	(岐阜大学教授)
北島	義俊	(大日本印刷株式会社代表取締役社長)
久世	均	(岐阜県教育委員会事務局)
久保田	了司	(高度映像情報センター理事)
黒川	マキ	(大阪学院大学講師)
斎藤	哲瑯	(川村学園女子大学教授)
清水	厚実	(図書教材研究センター所長)
園屋	高志	(鹿児島大学教授)
谷口	知司	(岐阜女子大学教授)
谷口	由美子	(京都市立芸術大学講師)
丁子	惇	(東京書籍株式会社取締役相談役)
鳥居	雄司	(都立世田谷工業高等学校校長)
長尾	尚	(大阪信愛女学院短期大学講師)
成瀬	喜則	(富山商船高等専門学校教授)
南部	昌敏	(上越教育大学教授)
西村	慶一	(大阪学院大学教授)
橋本	ヒロ子	(十文字学園女子大学教授)
服部	晃	(岐阜女子大学教授)
福田	隆眞	(山口大学教授)
福田	益和	(大阪工業技術専門学校理事長)
藤本	光司	(宝塚市立長尾中学校教諭)
古田	善伯	(岐阜大学教授)
堀田	龍也	(静岡大学助教授)
前田	志郎	(高知市立昭和小学校校長)
松川	禮子	(岐阜大学教授)
水島	英治	(常磐大学教授)
宮地	功	(岡山理科大学教授)
宮田	仁	(滋賀大学教授)
村瀬	康一郎	(岐阜大学教授)
森高	桂子	(東京学芸大学附属図書館)
横田	学	(京都市立芸術大学助教授)

= 2005年度 深谷基金教育情報研究プロジェクト 募集要項 =

[目的]

故深谷哲先生（本学会理事）の御遺族からの寄付金を基金に，教育情報に関する領域での課題について，教育実践研究に取り組む本学会会員のプロジェクトに対して支援し，その成果を広く教育界に還元することをめざす。

[応募プロジェクトの内容] 次の または とする。

教育実践と学術の融合を図る教育実践研究プロジェクトであること。
教育現場で役立つ教育実践プロジェクトであること。

[プロジェクトの条件]

プロジェクト期間は1年間とする。
プロジェクトメンバーの校種，人数は特に定めない。
代表者（申請者）は日本教育情報学会会員であること。
他の研究補助（科研費，各種団体など）との重複は問わない。
プロジェクト終了後，年会において研究成果を報告（発表）する予定であること。
成果報告については，学会誌「教育情報研究誌」へ投稿する予定であること。

[プロジェクト支援金について]

プロジェクト1件につき支援金は20万円を限度とする。
各種団体等からの協賛を得て，副賞を贈ることがある。
補助金の詳細な用途（備品，消耗品，会議費など）は特に定めない。

[その他留意事項]

若手の応募を歓迎する。
プロジェクトの成果により，学会賞の候補として推薦する。
2005年度の採用件数は若干数とする。
（趣旨に合致すれば相当数を採用し，合致するものがなければ採用を見送る）

[応募要項]

所定の申請用紙に記入の上，日本教育情報学会運営本部事務局へ郵送する。
（申請用紙はホームページ上にも掲載しています）
提出期間：2005年9月20日～11月30日（当日消印有効）
郵送先：〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15（学）産業能率大学内
日本教育情報学会運営本部事務局（深谷基金教育情報研究プロジェクト申請）

[審査方法] 深谷基金実践研究プロジェクト審査委員会により厳正に行う。

[審査結果] 採否については，2006年1月代表者へ事務局より通知する。

【2004年度採用プロジェクト】

荒川 信行（品川区立三木小学校） 他3名 支援金：10万円
「学習アセスメント支援システムの開発 - ICTを活用した新しい評価方法」
井上 史子（山口市立川西中学校） 他4名 支援金：20万円
「学生参画型授業モデルの開発に関する実証研究～討議・批判・論理・表現伝達能力の育成～」
成瀬 喜則（富山商船高等専門学校）他7名 支援金：20万円
「ICT活用による日英間交流学習促進プロジェクト」